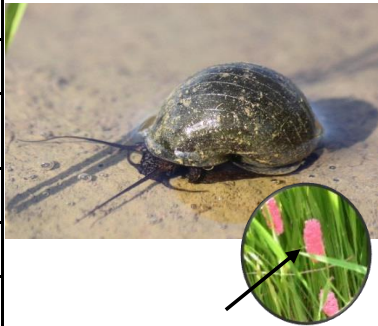


鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

食用や園芸植物に付着して侵入しました。通称ジャンボタニシと呼ばれています。鹿児島県では緊急防除種に指定され、島嶼を含む県内全域で確認されています。淡水性貝類との競合やイネへの被害、寄生虫の感染(広東住血線虫)が確認されています。自分の水田などで見つけたら、できるだけ防除をして下さい。

1 基本情報

分類		
目・科名	盤足目リンゴガイ科	
種名(亜種名)	リンゴガイ類	
学名	<i>Pomacea canaliculata</i> (スクミリンゴガイ)	
環境省カテゴリー	重点対策外来種	
県カテゴリー	緊急防除種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	関脇(本土)	
番付表掲載の理由	知名度の高い外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的外来種ワースト100)	世界の侵略的外来種ワースト100 日本の侵略的外来種ワースト100	
侵入・定着の状況		
自然分布域	アルゼンチン	
県内初報告	不明	
県内への侵入の経緯	食用で導入されたり、園芸植物に付着	
県内の侵入分布	島嶼を含む県内全域	
全国の侵入分布	関東以南各地	
生態学的特性		
生態	食性は主に植物食であるが、動物の死骸や菌類も食べる。エラと肺様器官を持ち、水中ではエラ呼吸、空気中では肺呼吸する。雨の日などは畦も横断する。乾燥した条件では口蓋を閉じて代謝を下げ、長期間生存する。 低温耐性は低く、0℃で25日、-6℃で24時間以内に死亡。冬季は土に潜る。	
形態	殻高5cm以上になる大型の巻き貝。最大で8cmほどになる。殻の形状はタニシ様で、赤褐色の帯が10～15本ある。植物や水路の壁にピンク色の卵を生む。	
繁殖形態	メスが夜間水上に出て植物体や水路壁にピンク色の卵塊を生む。1卵塊に200～300卵程度で、産卵頻度は3～4日に一度。約10日で孵化し、2ヶ月程度で成体になる。繁殖期は特に無い。雌雄異体。	
生息環境	淡水性で水田、水路、ため池などに生息する。	
特記事項	通称ジャンボタニシと呼ばれている。	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①淡水性貝類との競合。 ②イネへの食害。 ③寄生虫の感染(広東住血線虫)
県内で特に予想される被害	淡水性貝類との競合。イネへの被害。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①繁殖能力の高さ。 ②食用での導入。園芸植物に付着。
3 対策	
リンゴガイ類を見つけたら	自分の水田などで見つけたら、できるだけ防除をして下さい。
見分け方	スクミリンゴガイは、殻高5cm以上になる大型の巻き貝。最大で8cmほどになる。また、卵は特徴的で、鮮紅色の卵塊を生む。類似種であるタニシの殻高は1cm～8cm程度であるが、5cm以下の種が多く、スクミリンゴガイ程大きくない。
見かけやすい場所・時間	淡水性で水田、水路、ため池などに生息する。
防除方法	水田の取水口に網を設置することで分布拡大を防止・低減できる。苗の水田への移植時期を早める、稚苗でなく中苗～成苗を移植する、水深の管理、冬季の耕起、農薬(石灰窒素、IBP粒剤、カルタップ粒剤、ペンスルタップ粒剤、エチルチオメトン・チオシクロラム粒剤)、天敵導入(餌付けしたアヒル)、銅資材による産卵防止(銅網・銅テープなど)など。
防除の取組事例	九州沖縄農業研究センターのホームページにもスクミリンゴガイのサイトがあり、詳しい防除方法なども掲載している。 千葉県、神奈川県高座郡寒川町、愛知県小牧市などではホームページにスクミリンゴガイについてのサイトを作成している。
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/70310.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 九州沖縄農業研究センターホームページ スクミリンゴガイ http://www.naro.affrc.go.jp/karc/applesnail/ 千葉県ホームページ スクミリンゴガイの防除対策について https://www.pref.chiba.lg.jp/ninaite/network/h22-fukyu/gaicyu05.html 財団法人自然環境研究センター(2008)日本の外来生物. 平凡社. 東京